

目指す学校像	夢のある生き生きとした学校 学校教育目標 大きな夢をもつ 自ら学ぶ 認め合う
--------	--

重点目標	1 1人1台端末で広がる、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を行う。 2 思いが重なる生徒指導・教育相談を行い、心理的安全性を高める。 3 思いが重なる地域連携を行い、未来の地域の担い手を育てる。 4 教職員の心理的安全性を高め、プロ教師として授業改善を図る。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和6年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○生徒は、落ち着いた授業を行っている。 ○主体的に取り組む調査・整理・まとめ・発表する活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査において、どの教科も基礎問題・活用問題とも課題がある。 ○集中力が持続しない生徒やすぐあきらめてしまう生徒もいる。	主体的に学ぶ授業に向けた授業改善	①全授業で「主体的に学ぶ」時間を最大限増やし、自由進度学習も加味した個別最適化授業を行う。 ②全授業で、全生徒が「1人1回以上発表」する時間を確保し、意見をつなぐ学び合いによる授業を行う。 ③授業で、探究、考察、協働制作、発表、振り返り等において「1人1台端末」を効果的に活用した授業を行う。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「本校生徒は、自らの考え・意見を言ったり、授業・部活動・学校行事等で自らを表現したりできている」の項目で、肯定的な回答が90%以上となったか。 ②授業内における1人1台端末の利用状況が上昇したか。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「本校生徒は、自らの考え・意見を言ったり、授業・部活動・学校行事等で自らを表現したりできている」肯定的な回答が97.7%となり、達成することができた。 ②授業内における1人1台端末の利用状況が上昇した。	A	・1人1台端末の活用もさらに広げ、授業者の個に応じた指導、生徒の個別最適化学びの質を高め、一人ひとりの目標に向けた自律した学習者を育てる。	・先生方が生徒のやりがいを引き出すため工夫のある授業をしてきており、生徒もそれに応え努力している。 ・学力面で向上が見られる。取組の成果であると考えている。今後も個に応じた指導を行ってほしい。 ・一人ひとりによきがあるため個別最適化学びがさらに広がっていきといい。 ・生徒の放課後の自宅での学習が少ないように感じる。自ら計画する力や自律して学習できる力を育成する取組を増やしてほしい。
		非認知能力の育成に向けた共通支援の実施	①全授業者が1年間に1回以上、専門家・実物・体験、他校等とつながる授業を行い、生徒の学ぶ意欲を高める。 ②基礎基本を提示し「全員ができる」まで繰り返し学習を行い、データを利活用し、やればできる気持ちを育てる。 ③スタディサプリやドリルパーク、ワーク等の提出物は、「全員回収」による支援をし、やり抜く力を高める。	①さいたま市学習状況調査に係るアンケートで、「教科が好き」の項目で、肯定的な回答が上昇したか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「学校は本校の生徒の力を高め、伸ばしてくれている」の項目で、肯定的な回答が90%以上となったか。	①さいたま市学習状況調査に係るアンケートで、「教科が好き」の項目で、肯定的な回答が、前年度より上昇した。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「学校は本校の生徒の力を高め、伸ばしてくれている」肯定的な回答97.7%となり、達成することができた。	A	・自ら見通しをもち、計画を立てて勉強することやあきらめずに粘り強く学習に取り組む生徒の育成に向け、次年度は、自ら見通しをつくることや計画を立てる機会を増やし、自律した学習者を育てる。	
2	<現状> ○魂で付き合う教職員が多く、先生と生徒、生徒同士の仲が良い。 ○コロナ禍における感染症対策による制限の中で工夫して生活してきた。 <課題> ○安心・安全について、全生徒・保護者が肯定的な回答となっていない。 ○「食べる・寝る・決まった時間に勉強する」などの基本的な生活習慣が定着していない傾向がある。	規律があり、認め合う生活に向けた校内体制の充実	①話す・聞く・動く等の「授業規律」を話し合い、一人ひとりが学びやすい、認め合う雰囲気のある授業を行う。 ②学活等で、生徒自身が学級や学校のルールを決める時間を確保し、自ら判断し、行動できる生徒を育成する。 ③生徒が主体的に目標を設定し、計画し、運営する活動を増やし、生徒の「失敗を見守り、改善していく姿勢」を誉め、失敗しても許される雰囲気をつくる。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「本校生徒は、学級や学校のマナーやルールを守っている」の項目で、肯定的な回答が90%以上となったか。 ②「先生は生徒からの相談に適切に対応してくれる」の項目で、肯定的な回答が90%以上となったか。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「本校生徒は、学級や学校のマナーやルールを守っている」の項目で、肯定的な回答が81.8%と、目標値に近づくことができた。 ②「先生は生徒からの相談に適切に対応してくれる」の項目で、肯定的な回答が95.7%となり、達成することができた。	A	・誰もが居心地のよい規律のある学校生活に向け、生徒が主体的にルールやマナーを確認する機会をつくり、互いに認め合い、高め合う生活に向けた取組をする。 ・生徒はマナーを守り、規律正しい生活をしている。今後もマナーや規律正しい生活に向け、取り組んでほしい。 ・何か躓きのある生徒は、導きによっていい方向に進む。引き続き、寄り添い、導き、見届けることにより、生徒をいい方向に導いてほしい。 ・敬語、言葉の使い方など、場をわきまえて使い分けられるようになるといい。	
		人生の根っこづくりに向けた取組の充実	①学校保健委員会、講演会等を開き、「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣を向上する。 ②年間を通じ、人権教育の指導を行い、研究発表を通し、人権感覚を高める。 ③生徒の活動時間は、生徒とともに活動し、未然防止・早期発見・早期対応に徹し、組織的な教育相談を行う。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「学校の雰囲気はよく、生徒は明るく生き生きしている」で肯定的な回答が90%以上となったか。 ②「早寝・早起き・朝ご飯」の項目で、肯定的な回答を上昇することができたか。	学校自己評価に係るアンケートで、 ①「学校の雰囲気はよく、生徒は明るく生き生きしている」で肯定的な回答が93.4%となり、達成することができた。 ②「早寝・早起き・朝ご飯」の項目で、肯定的な回答を上昇することができた。	A	・基本的生活習慣の定着に向けた取組や人権意識を高める取組を通し、人としての人生の根っこづくりに向けた取組をする。	
3	<現状> ○学校運営協議会1年目「大谷中生に身に付けさせたい力」について熱い熱議を行った。 ○各種だよりや学校ホームページによる情報提供について、評判がよかった。 <課題> ○コミュニティ・スクールとしての活動が少ない。 ○情報提供に向けての分業化、効率化を図る必要がある。	コミュニティ・スクールのわくわく感の高揚	①学校運営協議会で熱議を重ね、役割分担をし、組織的に動き出す。 ②CMS化によるホームページを再構築し、覗きたくなる情報を提供する。 ③部活動地域移行に向けた他校との連携、地域協力者を広げる。	①役割分担ができ、学校運営協議会とともに活動する方や組織が増えたか。 ②毎日、学校ホームページを更新することができたか。	①学校運営協議会において、明確な役割分担はできなかったが、次年度に向け、実施できそうなことへの構想ができた。 ②毎日の学校ホームページの更新はできなかったが、毎月の学校だよりや学校の連絡、期間限定の授業や行事の風景を掲載することができた。	B	・学校運営協議会を中心として、学校と地域の連携、共通行動の取組を深める取組を行う。	・一つひとつ学校と地域が運動したことを増やしていきたい。 ・学校行事など企画の段階から意見を交わせる場があるといい。 ・学校運営協議会に参加し、地域の方の思いがよく分かった。今後、さらに学校運営協議会のことを周知していきたい。 ・「生徒のためになることをしてあげたい」という思いのある方を巻き込んでいきたい。
		未来の地域の担い手育成に向けた取組の実施	①授業内外で「いつでも、どこでも、誰でも、学べる環境」を提供する。 ②日々の授業や出前講座等、地域人材を活用した学習を広げる。 ③生徒が考える企画やボランティア等の地域貢献をする活動を増やす。	①学校運営協議会が主催した取組を実施できたか。 ②さいたま市学習状況調査で、地域との関わりについての項目で、肯定的な回答が50%以上となったか。	①学校運営協議会と土曜チャレンジが運動した放課後学習室を実施することができた。 ②さいたま市学習状況調査で、地域との関わりについての項目で、肯定的な回答が50%以上となり、目標を上回るすることができた。	A	・生徒と地域との関わりに向け、教育課程内外の地域との継続的な取組を増やす。	
4	<現状> ○若手の教職員が増えている。 ○エバンジェリストが中心となり、1人1台端末を活用した授業について研修を重ねている。 <課題> ○若手の教職員が増え、プロ教師としてのスキルを向上する必要がある。 ○1人1台端末の活用について、教職員間で取り組みの差が見られる。	教職員の心理的安全性を高める業務改善の実施	①「通年17時完全下校」とし、生徒と教職員の心の余裕を増やす。 ②全教職員で「失敗をフォロー」し合いともにのびのび動く職場をつくる。 ③月1回運営委員会、「教職員校長面談」を実施し、やりたいこと、業務改善等を協議する。(会計再編も含む)	①教職員アンケートで、心理的安全性の項目を向上することができたか。 ②わくわくする業務改善をすることができたか。	①昨年度より、仕事のコントロールや仕事の量的負担の数値が良好になった。 ②生徒の1人1台端末で、Forms等を活用したアンケートの実施や行事の精選、次年度から給食費等公会計化、学年費等の現金集金から口座振替の切り替えの準備ができた。	A	・教職員の多忙感や負担感を減らすため、時間的、物理的、心理的安全性を高めるための話し合いを行い、小さいことから業務について改善する取組を行う。	・先生方が生き生きしている姿を見て、大変うれしく思います。運動して生徒たちも生き生きしていると思います。今後も継続してほしい。 ・教職員の皆さんが、目に見えない努力をしていると感じる。ありがとうございます。
		自ら満足のいく授業に向けた研修の実施	①月1回エバンジェリストを中心に「1人1台端末活用研修」を実施する。 ②「自由進度学習・学び合い」の授業について講師を招聘し、授業改善する。 ③1人1台端末を活用した相互授業参観を行い、高め合う研修を実施する。	①1人1台端末で広がる、主体的・対話的で深い学びによる授業改善に関する項目が上昇したか。 ②1人1台端末を活用した相互授業参観を行い、高め合うことができたか。	①教職員のICT活用能力が上がり、1人1台端末を活用した授業が増えた。 ②1人1台端末を活用した市教委による指導訪問や人権教育の発表を通し、互いに高め合うことができた。	A	・授業における1人1台端末のスキルや個別最適化学びに向けた授業づくりに向けた取組を充実する。	